

当院で実施される下記の臨床研究はオプトアウトにより実施します。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、これらの研究にご自身の診療情報を使用してほしくない場合は各研究の担当者までお問合せください。

<p>研究課題 (承認番号 2022035)</p>	<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧症 (CTEPH) のカテーテル的バルーン肺動脈形成術 (BPA) 治療における血行動態と自然経過に関する検討</p>
<p>担当科及び研究責任者</p>	<p>循環器内科 藤井 真也</p>
<p>利用目的</p>	<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧 (CTEPH) に対するカテーテル的バルーン肺動脈形成術 (BPA) は、安全かつ有効です。カテーテルを使って、肺の慢性血栓をバルーンで拡張し、血流を改善することで、肺の循環を改善させます。これにより肺高血圧 (肺の循環が悪い状態) が改善します。BPA は CTEPH における治療として確立されつつあります。その中で BPA による肺動脈の自然拡張現象が報告されております。しかし、自然経過で BPA 直後からどれほど血行動態が改善するかに関しては十分に検討されておられません。</p> <p>このような検討事項を、すでに BPA 治療を終了された患者様から得られたデータを用いて分析します。その意義を検証することで、BPA 後の治療の評価をすべき時期や治療効果の予測に寄与するとおもわれます。</p>
<p>研究の対象者及び対象期間</p>	<p>CTEPH 患者 約 90 例 (2014 年 7 月～2022 年 11 月 30 日までに当院で BPA を施行された CTEPH 患者様)</p>
<p>研究の方法</p>	<p>通常 BPA 治療をした CTEPH 患者のなかで、主要評価項目 (右心カテーテルデータ) を BPA 前、直後、BPA 2 回目の直前で比較し、自然経過での改善の程度とそれに関与した因子を検討する。</p> <p>本研究は、通常 BPA 治療をした CTEPH 患者においてデータを抽出する後ろ向き観察研究である。</p>
<p>問合せ先</p>	<p>埼玉県立循環器・呼吸器病センター 循環器内科 藤井 真也 (ふじい しんや) +81-048-536-9900 (内線 5064)</p> <p>東京慈恵会医科大学附属病院 循環器内科学講座 研究代表者：藤井真也 (ふじいしんや) 電話： 03-3433-1111 (内線：3261)</p> <p>東京慈恵会医科大学附属柏病院 循環器内科学講座 窓口担当者：白崎圭輔 (しらさきけいすけ) 電話： 04-7164-1111 (内線：3208)</p>